

大阪万博の メインテーマ

「人類の健康・長寿への挑戦」に提案する Our Health Our Future ②

たまご理
院長 石垣 邦彦



〒581-0061
大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072 (991) 3398
FAX072 (991) 4498
ホームページアドレス
http://www.tamagobl.com/

たまご理論で病気の
しくみを考える

日本国民への提言 ②

日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する

大阪に万博を誘致する

2025年国際博覧会(万博)誘致に向け、経済産業省は2月15日の有識者検討会で、大阪府が掲げていた「人類の健康・長寿への挑戦」に代わる4つのテーマ案を示しました。これによって、より広範なテーマに変更される見通しとなりましたが、背景には、開催地決定の力を握るとされるアフリカや中南米など発展途上国の賛同を得なければならぬという事情があるようです。

立候補する上で、世界中が共鳴できる課題や新たな社会の姿を問うテーマを提案する必要があります」と検討会に出席した世耕弘成経済産業相はこうに強調しました。

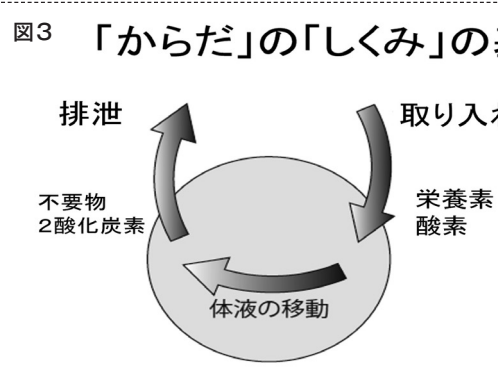
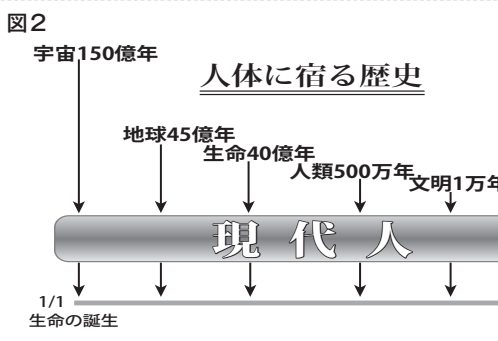
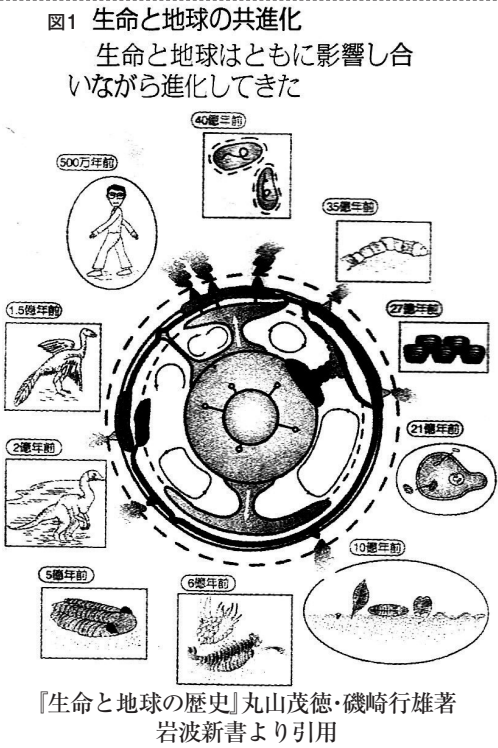
- 同省は万博の、新たなテーマとして、
- ①「いのちを支える社会の創造」
 - ②「共に輝く生命・輝き続ける地球」
 - ③「人類の進歩と幸福の再考」
 - ④「未来社会をどう生きるか」
- の4案が提示されました。

有識者の一人である増田明美さんは「案をもっているのは圧倒的にアフリカです。途上国が参加しやすい万博の視点を大事にすべきだと思います」と述べ、テーマの拡大に賛意を示すと、他の委員からも同意する意見が相次いだそうです。

2025年万博誘致にはフランス・パリがすでに立候補しており、ヨーロッパ圏にかかわりの深い加盟国はパリに傾くことも予想され、誘致実現には全加盟国の半数近くを占めるアフリカ、中南米各国の支持が不可欠な状況だそうです。

前回、わたしは「Ⅰ部分と全体、全体と部分のかかりについて」

全宇宙・各銀河・太陽系の惑星・地球の関係と、特に地球と生きものが織りなして共進



- 表1 健康体の三大特徴
- (1)「上腹部の柔軟度」＝腹部の柔軟度と形態と温度分布
「健康体」の場合、立位で上腹部が下腹部より少し低く手で上腹部を圧迫しても圧痛は無く、しりとりもなく、その圧迫をとくとすぐに元に戻る柔軟度があり適度な緊張がある。
また、腹部全体は温かくほぼ同一温度である。
 - (2)頭部と足先の温度差
「健康体」の場合、頭部が足先より約1度から3度高い範囲である。
 - (3)立位での姿勢
「健康体」の場合、正面からみると脊柱は正中線上でまっすぐであり、側面からみると生理的に適切なS字状の湾曲を保ち、人体の各部位に余分な緊張と力の過剰な負担がない。

した結果(図1)わたしたちの「からだ」(図2)があること。

「Ⅱからだ」の「しくみ」の基本について

「からだ」の「しくみ」の「はたらき」の基本は体液の移動による「取り入れ・排泄(図3)にあること。その「しくみ」がスムーズにはたらき、健康体の三大特徴(表1)があらわれない。

「Ⅲからだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」時には、「上腹部の柔軟度」が「やわらかい」

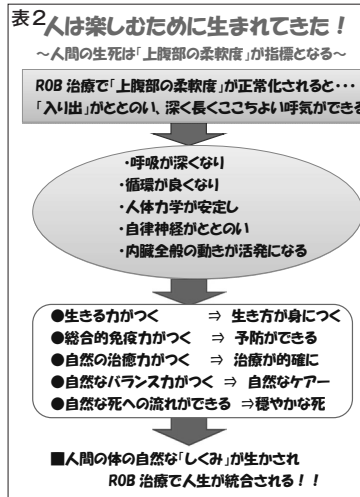
「上腹部の柔軟度がやわらかい時には「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」がどのくらい、その状態がオキヤンと生まれてから迎えが来るまで保たれていれば、人生を全うできる」と(表2)。

そのため「生きる」とはこの「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態である「上腹部の柔軟度」を生み・保持する生活を営むことが基本である。

「Ⅳ人の一生を通じて「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態Ⅱ「上腹部の柔軟度」が「やわらかい状態がある」と「生きる死にゆく」と「かかき」を「運ばれる」

わたしは人間は生きものであり、他の生きものと同じく、「生まれ生きぬき老死」にゆくという「いのち」をつなぐ大切な役割があり、その「からだ」のシステムはわたしは人類一人ひとりにすでに「からだ」に備わっている。

そして「いのち」をつなぐと全体が、一年草の草花と同じく、一人ひとりが自覚しようとして「いのち」を生かす人間が「生きる」目的となつてくる。



「わたしは一人ひとりがヒトの「いのち」をつなぐ鎖の環であると感じるところに、安心とやすらぎが生まれる」

わたしは人間は生きもので、他の生きものと同じく「生まれ・生きぬき・老死・死にゆく」という「いのち」をつなぐ大切な役割があり、その役割を担う鎖の環の一つであると感じることが生活を豊かにし、特に高齢者の安心とやすらぎが生まれること。

「Ⅰ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

「Ⅱ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

「Ⅲ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

「Ⅳ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

「Ⅴ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

「Ⅵ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

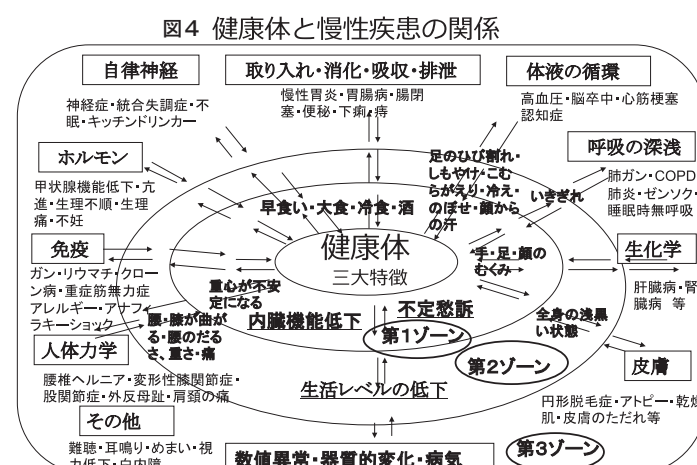
「Ⅶ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

「Ⅷ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

「Ⅸ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

「Ⅹ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」

「Ⅺ創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)と「からだ」に備わっているいのちをつなぐシステムとのかかわりについて」



「Ⅶ「生きる」としてのヒトⅡ「生まれ・生きぬき・老死・死にゆく」ことで「いのち」をつなぐ存在としての人間と創意工夫(知恵・哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など)との関係について」

近代医学は素晴らしい成果をあげてきました。しかし、結果としての病気に部分的に関連してゆくの図4の一番外回りの病気を各科で部分的に対応する意味では限界があること。

ただ単に長生きするだけでは、「いのち」をつなぐシステムとして「からだ」にすでに備わっている「老死・死にゆく」こととの大きな矛盾が生じていること。

大内副義 日本老人医学会理事長が提案さ

れる「フレイル」という概念のもと「介護予防」にあたること、井村裕太公益財団法人 先端医療振興財団名誉理事長が提唱される「先制医療」によって高齢者の病の発症予防・遅延に重きを置くことが必要となっていること。

その二つの大事な動きを「健康体の特徴」である「上腹部の柔軟度」をやわらかく状態にすることによってさらに飛躍的に高めることになり、表すところにより病気の予防・介護の予防ができ、これからの超高齢化社会を乗り切る方法になっていくこと。

そのことに要するお金は少な。からだの「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態である「上腹部の柔軟度」が「やわらかい状態」を日々の生活から生み・保持することこそその目的を達することができると。

以上七項目を提案させていただきました。

の程度にあらわれ、人間の姿・形・動作と密接な関係がある」

「Ⅱ人体力学(姿勢と動作) 発見に至る経緯について」

「Ⅲわたし自身の「からだ」の気づきについて」

「Ⅳ妻の妊娠による「からだ」の変化が大きな発見につながり」

「Ⅴ胸腹(むねばら)とはどういう状態か」

「Ⅵ背中・腰・膝の曲がり、頸が回らない、すり足でない歩けない、手が上がらないなどの姿勢と動作の異常は、「からだ」全体を守るための防衛反応」

「Ⅶお腹を押さえた痛みⅡ腹部の圧痛と頸の緊張・背中・腰・膝の曲がりなどの関係」

「Ⅷ腹部の圧痛を明確にする」

「Ⅸ引き続き腹部の圧痛について」

「Ⅹ日々の生活の中で片寄った動き・姿勢がないにもかかわらず、姿勢の異常・関節の変形・だるさ・痛みがなぜ出るのか」

「Ⅺあらゆる姿勢・動作と上腹部のくぼみ度合いⅡ上腹部の高低下には相関関係がある」

「Ⅻ臨床研究例(仰臥位Ⅱ上向き) 姿勢と腹部の圧痛」

「Ⅼ臨床研究例(立位Ⅱ立った状態) 姿勢と腹部の圧痛」

「Ⅰ「いのちを支える社会の創造」

「Ⅱ共に輝く生命・輝き続ける地球」

「Ⅲ人類の進歩と幸福の再考」

「Ⅳ未来社会をどう生きるか」

「Ⅴ上腹部の柔軟度」をやわらかくし「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」の「はたらき」をよきように調節しすぎた「からだ」の各部分Ⅰ頭・頸・肩・背中・腰・股関節・足関節・趾・肩肘関節・指などに痛み・しびれ、動きの悪さなどが出さず、生活するうえで不都合がでてきて初めてその異常を知ることになる。

以上の臨床研究から得た事実を踏まえて、次回4月号からは、菊地臣一福岡県立医科大学学長・理事長出演・監修のNHKスペシャル『腰痛・治療革命』～見えてきた痛みのメカニズムを題材にし、「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態Ⅱ「健康体の特徴」と「上腹部の柔軟度」と「人体力学」の関係を核にすべし、いよいよ具体的に「腑に落ちる」「納得がいく」「違和感のない」新しい概念の実際を述べてゆきたいと思ひます。

そして、そのこと自体が経済産業省が提案する万博の、新たなテーマである

「Ⅰ「いのちを支える社会の創造」

「Ⅱ共に輝く生命・輝き続ける地球」

「Ⅲ人類の進歩と幸福の再考」

「Ⅳ未来社会をどう生きるか」

の4案の根本的な理論的支柱となり、大阪万博誘致の具体的な手段となつてきます。